

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価報告書

学校法人 愛基学園 札幌円山幼稚園

1、教育目標

幼児期に豊かな人間性の芽生えを育てるために設定する本園の教育目標は下記の6つある。

- 健康で明るい子ども
- 生き生きとして、やる気のある子ども
- 協調性のある子ども
- 根気よく、集中力のある子ども
- 思いやりのある子ども
- 創造性のある子ども

2、本園の教育方針

本園は、以下の教育方針に沿って、園運営を行っている。

- 教職員一人ひとりが、園児の豊かな成長を日々願いながら、自主性・協調性・創造性、思いやりの心を育むために教育活動を行う。
- 全ての教職員が一つのチームとして協力し合いながら、一人ひとりの幼児の個性を尊重する指導を行う。
- 保護者の方々や地域の皆さまに信頼される幼稚園づくりに努める。

3、評価項目の達成及び自己評価

評価項目	取組み状況と改善のための方策
幼児の思いや考えに共感しながら幼児と一緒に活動する。	本園の教員は、幼児の思いや興味に耳を傾け寄り添いながら、日々、教育活動を進めるよう日々、努めている。
幼児が理解しやすいような正しい美しい言葉を使う。	本園では、幼児期に多くの「美しい言葉」に触れ合うことの大切さを認識しているため、全ての教職員が、幼児の前で（そして、教職員同士で）話す時に、丁寧で、正しく、美しい日本語を話すよう、常日頃から心がけている。 本園の卒園児や在園児の保護者の方々から「円山幼稚園の先生は、きれいな日本語を、ゆっくりと丁寧に、話されますね」と、お褒めの言葉をいただくことが多い。今回のアンケートでも、その点の評価が高かった。この状況をぜひ継続していきたい。
園児の状況などについて教職員同士で話し合い、共通理解を図るように、日常的に心がける。	朝礼、終礼、職員会議、そして、日々の教職員の意見交換の場を通して、園に通う全ての幼児についての共通理解を図り、園全体で、常に適切な対応を取れるように努めている。

評価項目	取組み状況と改善のための方策
<p>教職員全員で一つのチームであることを自覚する。</p>	<p>どのクラスの担当であるかに関係なく、その場にいる教員が、必要な場面で幼児に適切な言葉がけや対応ができるよう心がけている。</p> <p>本園に新しく着任される教職員は、毎年、契約形態を問わず、本園職員の仲の良さ、そして、チームワークの良さに驚き、感心している。</p>
<p>園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす。</p>	<p>多感な幼児期に自然や四季に触れることの大切さを認識し、機会を見つけて、円山公園、園庭、盤溪山の麓にある本園付属の自然体験学習園「おひさま広場」に行き、幼児が楽しく自然に触れ、自然や四季の移り変わりを感じることができるように努めている。</p> <p>この自然体験学習園「おひさま広場」では、毎年、春から秋にかけて、野菜栽培、野遊び、虫や草花などの自然観察といった貴重な経験をすることができるため、今後も、この場所へ行ける機会を増やしていきたい。</p>
<p>異年齢の幼児が交流できるような環境設定をおこなう。</p>	<p>預かり保育や、登園時間の同じ「きょうだいクラス」の縦割り活動を通して、異年齢の幼児が自然に交流することで、例えば、年長児が年少児のお世話をして優しさを育んだり、年中児が年長児に憧れて勇気をもらったり、といった素晴らしい状況が多く生まれる。</p> <p>今後も、想像力を働かせ、異年齢交流を盛り上げていきたい。</p>
<p>園内に危険な箇所がないか、幼児が危険な遊び方をしていないかなどについて、常に配慮し、もしも危険が予測される場合は、安全な遊び方について幼児と一緒に考え指導する。</p>	<p>園内外の活動において、幼児が安全に遊べるように、交通安全や、危険を回避するための具体的な方法について指導をしている。</p> <p>これからも、保育前、保育中、保育後に、活動場所の安全を意識した環境設定ができるように、細心の注意を払い取り組んでいきたい。</p>
<p>保護者の方からの相談や要望に丁寧に耳を傾け対応するように心がける。</p>	<p>本園に大切なお子さまを預けられている保護者の方々のご心配やご意見・ご要望に注意深く耳を傾け、どんな時も誠意をもって対応するように日々努めている。</p>
<p>園だより、クラスだより、個人懇談、参観日、連絡帳、ホームページなどを通して、幼稚園の情報を発信する。</p>	<p>本園ホームページでは、日々の保育の様子、様々な行事における園児の可愛いエピソードなどについて情報発信しており、これらについては、アンケートや日々の会話の中で、保護者の方々から評価のお声をいただくことが多い。今後も、頻繁に分かりやすい情報を発信していけるよう努めていきたい。</p>

4、 今後の課題

課題	今後の取り組み方法
<p>アフターコロナに適した行事運営の必要性</p>	<p>「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」へと少しずつ変わりゆく現在の状況の中で、どのように、園児の命と健康を守るための感染予防対策を講じながら、保育や行事の充実化を再び実現させていくかが課題となる。</p> <p>そのために、教職員間でさらに効率的な役割分担を設定し、さらなる協力体制を深めながら、教育活動を行えるように努めていきたいと考える。</p>

5、 学校関係者評価委員会の総合的評価と意見

結果	理由
<p>A</p>	<p>教職員は、一つのチームとして、協力したり助言し合ったりしながら教育活動に取り組む姿勢が随所に見られ、高く評価できる。</p> <p>また、教職員一人ひとりが、適切に日常的な自己点検や自己評価に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さらに、思いやりの心を育むために具体的な教育活動や行事が計画・実行されており、心身ともに園児の豊かな成長を見守る雰囲気は園全体にある。</p> <p>子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、子どもの自主性・協調性・創造性を育む教育内容を模索し実行している点も評価できる。</p> <p>今後も引き続き、教員自らが、その指導方法や教育内容などを日々ふりかえり、さらに充実した教育実践ができるよう努力していくことを大いに期待する。</p>